



スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成



Sport Academy


——— スポーツアカデミー2017 ———



「小学生のスポーツ活動における保護者の 関与・負担感に関する調査研究」の報告

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所
研究員 宮本 幸子

2018年2月9日（金） 19:00～



本日のアジェンダ

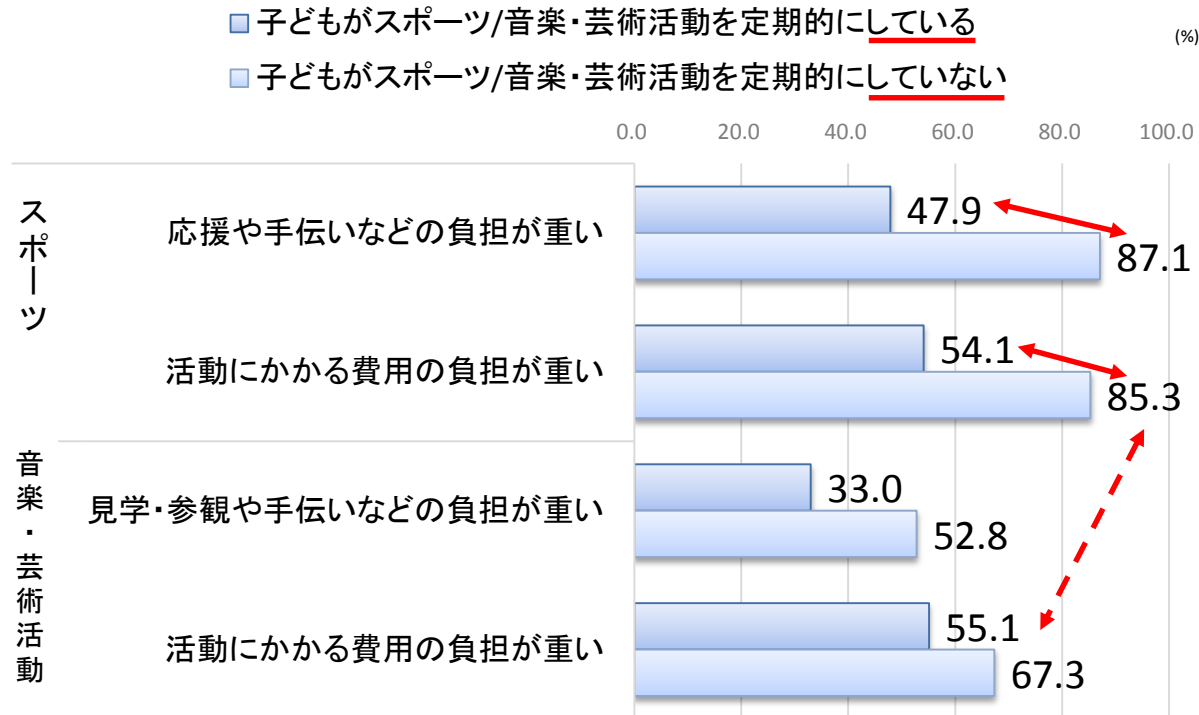
1. はじめに
2. 調査概要
3. 結果
 - ①スポーツ活動をしている子の母親
 - ②スポーツ活動をしていない子の母親
4. まとめと考察

1. はじめに

なぜ 保護者 に着目するのか。

- 「学校外教育」選択における保護者の重要性
- トラブル・問題行動の方が話題になりやすい
= 声をあげない大多数の保護者への関心
- スポーツをしていない子の保護者の負担感の強さ

スポーツをしていない子の母親の負担感が大きい



ベネッセ教育総合研究所2013「第2回学校外教育活動に関する調査」を二次分析。
(東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから個票データの提供を受けている)

対象は小学生(第1子)の母親6,180名。

数値は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

スポーツを「定期的にしている」は3,991名、「定期的にしていない」は2,167名。

音楽・芸術活動を「定期的にしている」は1,969名、「定期的にしていない」は4,189名。

—スポーツの重要な支え手として「当たり前」にみられているが、当事者である保護者はどのように思っているのか。

—保護者が支え手になれるか否かで、最後は子どものスポーツの機会に差が出てしまうのではないか。

2. 調査概要

インターネット調査

調査対象	調査会社の登録モニター。全国に居住する、小学生の第1子をもつ母親。
有効回答数	2,368名（第1子の学年・性別が均等になるよう割付をしている。）
調査時期	2017年2月
調査項目	全員に対して：現在行っているスポーツの種類、保護者の期待、家庭環境 等 スポーツをしている場合：所属する団体の種類、保護者の関与、やりがい・負担感 等 スポーツをしていない場合：しない理由 等

グループインタビュー



調査対象	<p>小学生(基本的には第1子)をもつ母親。 首都圏在住。</p> <p>①子どもが地域クラブでスポーツ活動をし、母親の関与度が高いグループ</p> <p>②子どもがスポーツ活動をしていないグループ</p> <p>※各5名</p>
調査方法	<p>対象者は調査会社のモニターからリクルート。 グループごとにガイドラインを準備し、1グループあたり120分のインタビューを実施。</p>
調査時期	2017年6月

- ① 保護者は何をしているのか？
- ② 子どものスポーツ活動を「支える」ことをどう思っているのか？
- ③ 誰が、「支える」ことに困難を感じているのか。

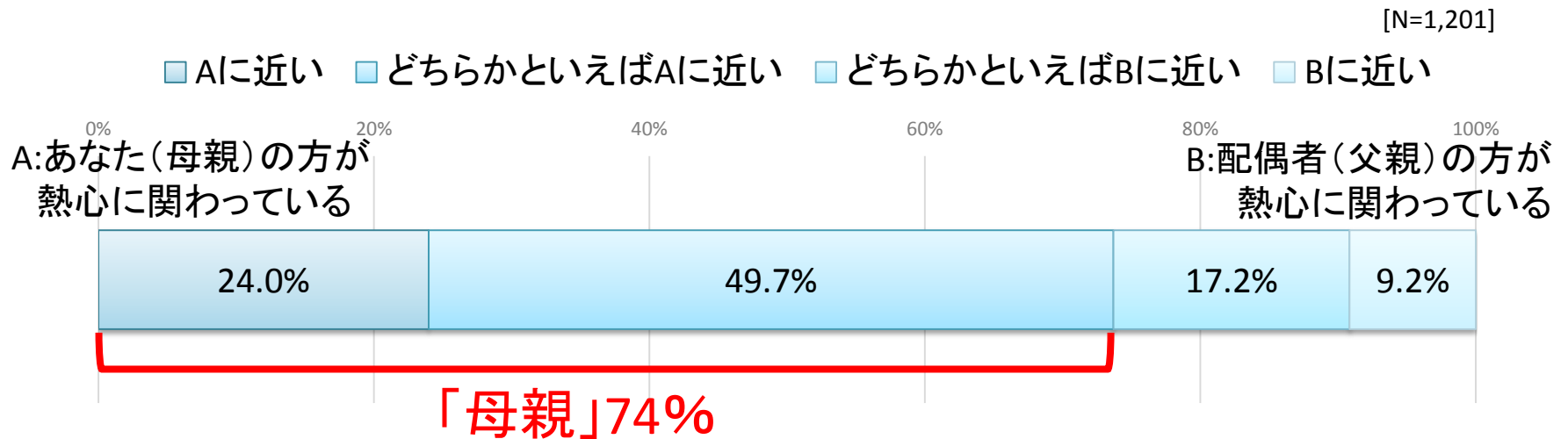
結果① スポーツ活動をしている子の母親



1) 家庭内のようす

「母親の方が熱心」74%、「父親の方が熱心」26%。

Q：お子様のスポーツ活動における、ご家庭での様子についてあてはまるものを1つ選んでください。



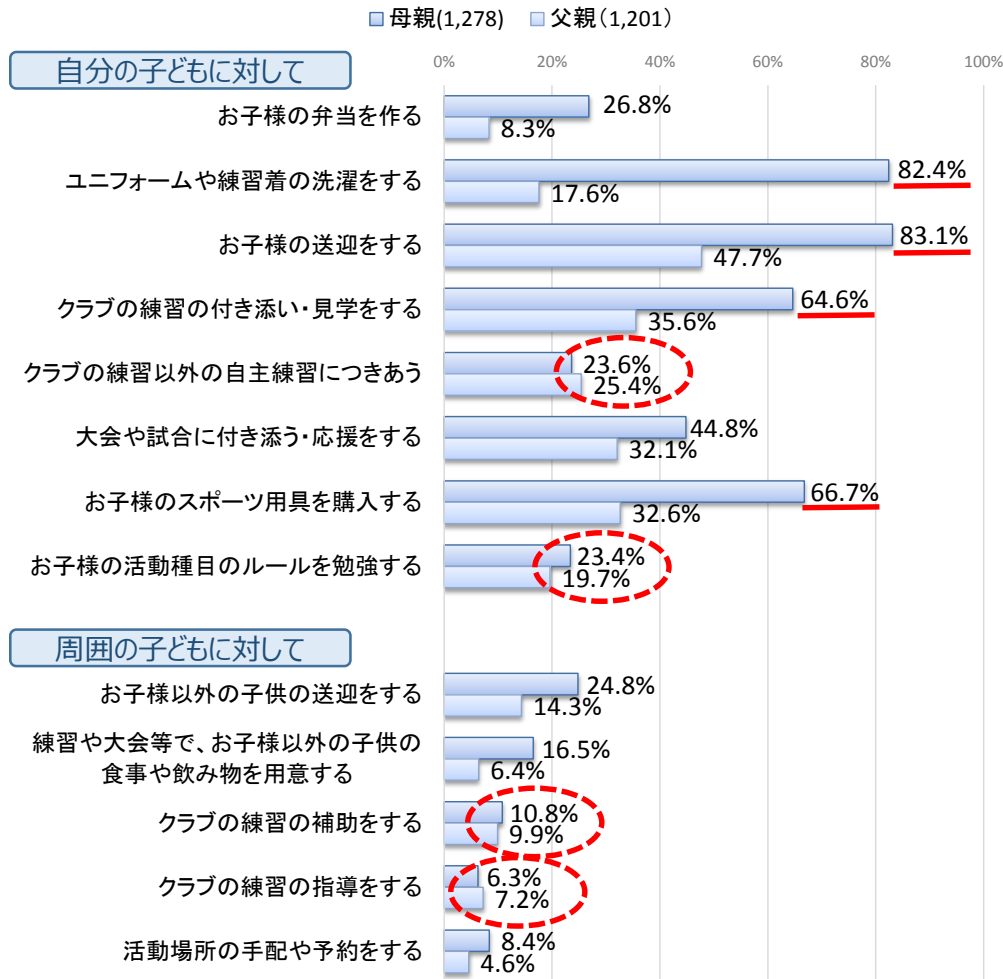
注1) 配偶者がいる人のみ回答。

注2) 実際の設問では行っている種目ごとに尋ねている。複数の種目を行っている場合は、1つめに選んだ種目について集計をしている(2種目め以降で集計しても傾向が変わらないことを確認している)。

2) 保護者の関与

日ごろの関与は母親のほうが頻度が高い

Q：あなた/あなたの配偶者は、現在お子様が団体（クラブ・教室等）で行っているスポーツ活動に関して、次のようなことをどれくらいしていますか。

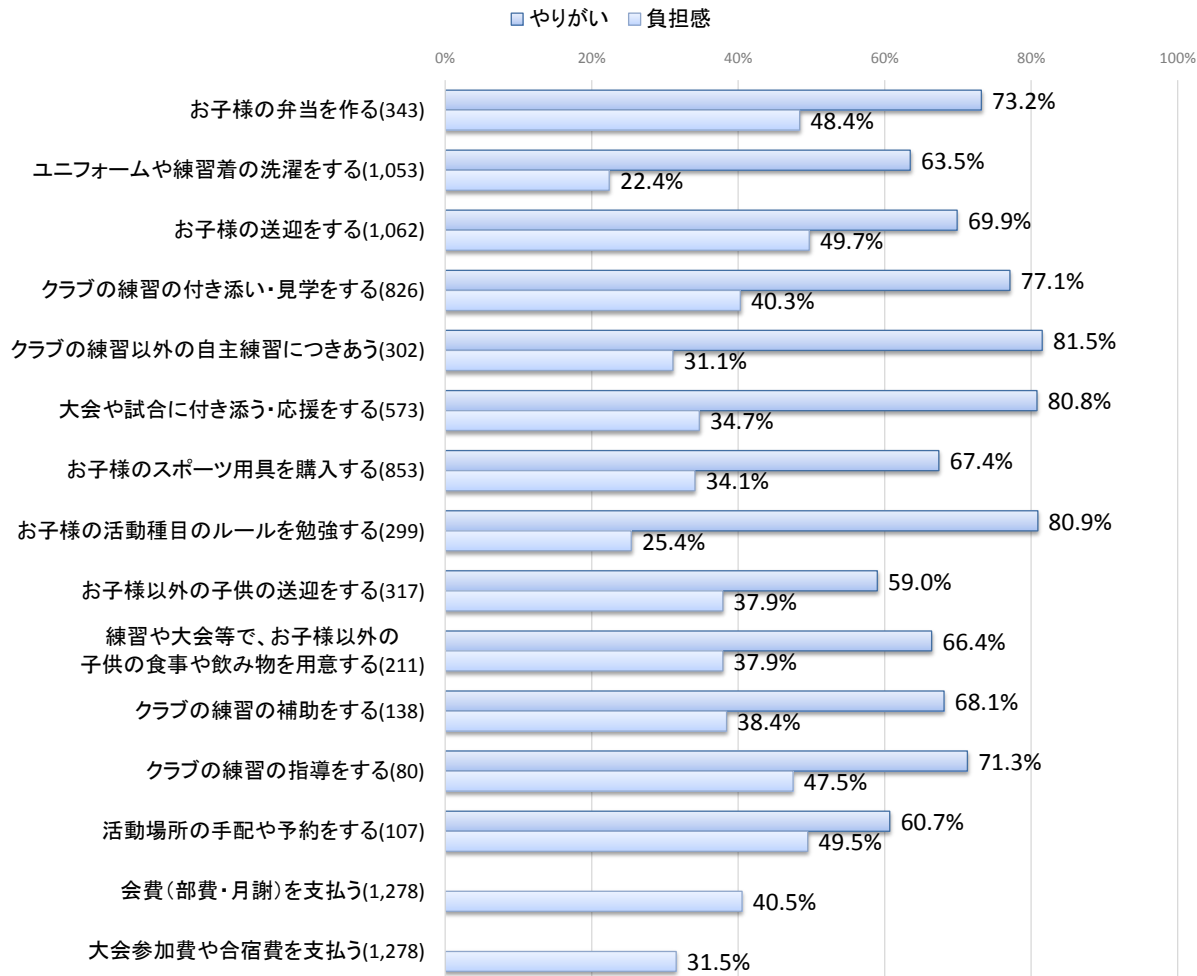


注1)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。
注2) 父親については、配偶者がいる人のみ回答。

3) 母親のやりがい・負担感

多くの母親がスポーツ活動への関与にやりがいを感じている

Q：あなたは現在、お子様のスポーツ活動に関する以下の行動について、どれくらいやりがい/負担を感じていますか。

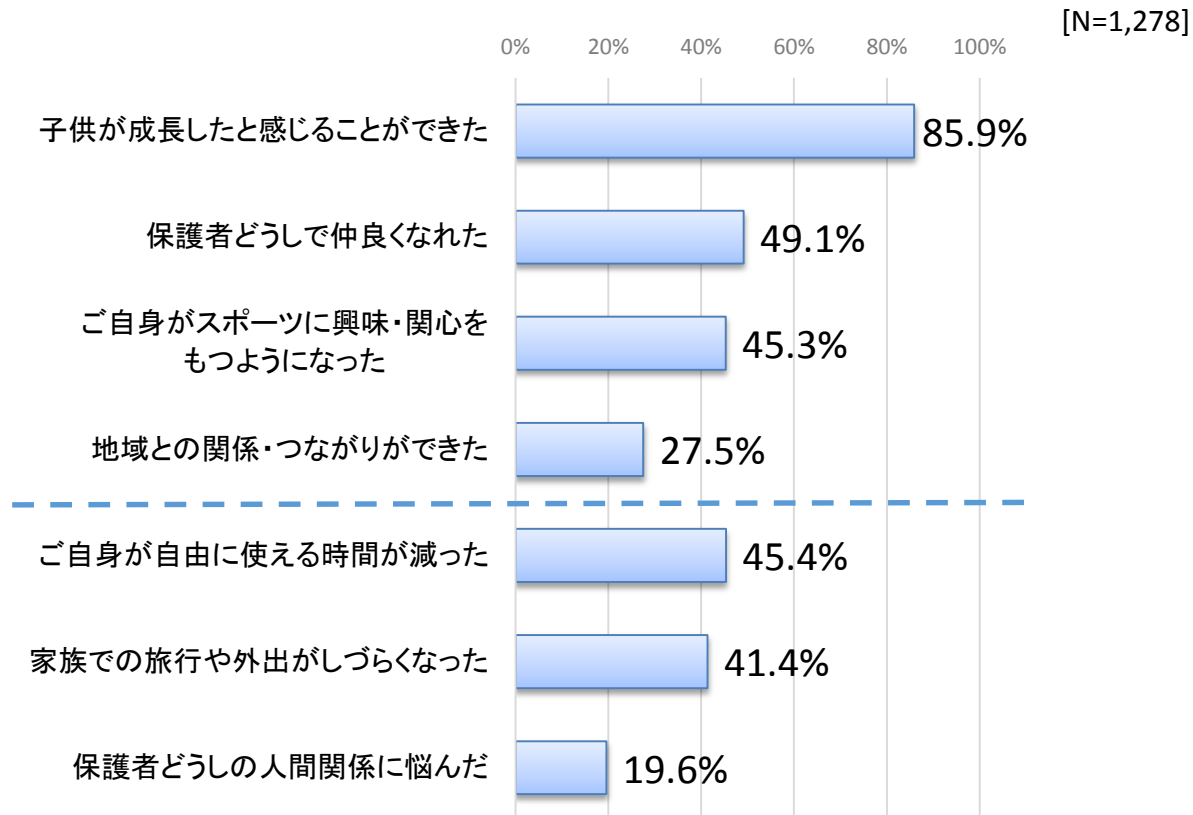


注1)「やりがい」は「とてもやりがいを感じている」+「まあやりがいを感じている」の%。
「負担感」は「とても負担に感じている」+「やや負担に感じている」の%。
注2)上から13項目に関しては、それぞれの支援を「よくする」「時々する」人を母数にしている。

4) 母親自身の変化

「母親の半数が「スポーツに興味・関心をもつようになった」。
自由に使える時間が減った家庭も4～5割に。

Q：お子様のスポーツ活動を通した、あなたご自身の変化について教えてください。



注)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

5) グループインタビューより①

試合での応援を中心に、「楽しい」の声は多かった



ぼろ負けしているところから見ているので、試合を見に行くのが楽しい。成長している過程をずっと見続けられるのが楽しい。

正直今は楽しい。「役員終わって寂しい」ぐらいの感じ。大会とか試合に出て、自分の子が出れなくても他の子が頑張ったりするのがかわいくて、嬉しそうな顔をするのもかわいくて、みんなで応援するのがすごく楽しくて…。

6) グループインタビューより②

家族への影響を評価する声も多い



地域とのコミュニケーションをとれるのはあると思う。子どもの影響で私たち(母親・父親)も体を動かすようになった。

妹がコーチとかクラブの子たちからすごくかわいがってもらっている。練習にいつも連れていくので。遊んでもらったりとか、自分の家族のみたいにしてもらえるのもよかった。

7) グループインタビューより③

一方で、強い負担感や個人差も



月に1回役員会というのに出なきゃいけない。本当になんでこんなことで1時間費やすんだということであ…。

正直、楽しいと思うことはない。お仕事。1年間という期限付きの仕事。

自分はアップダウンがある。楽しい時は楽しいけど、…つまってくると心折れそうになる時がある。

8) グループインタビューより④

「大変だと思ふ人に勧めるのは難しい」という声も



子どもと家族で出かけることはあまりできなくなる。せっかく子どもと過ごしたかったのにとこの方もいると思うから…。

お母さんがつらいと子どもに影響するから、お母さんが「子どものために」と思うぐらいなら絶対やめたほうがいい。

**個人差もあるうえ、一個人のなかでも様々な思いを抱えている。
→保護者の多様性**

結果②

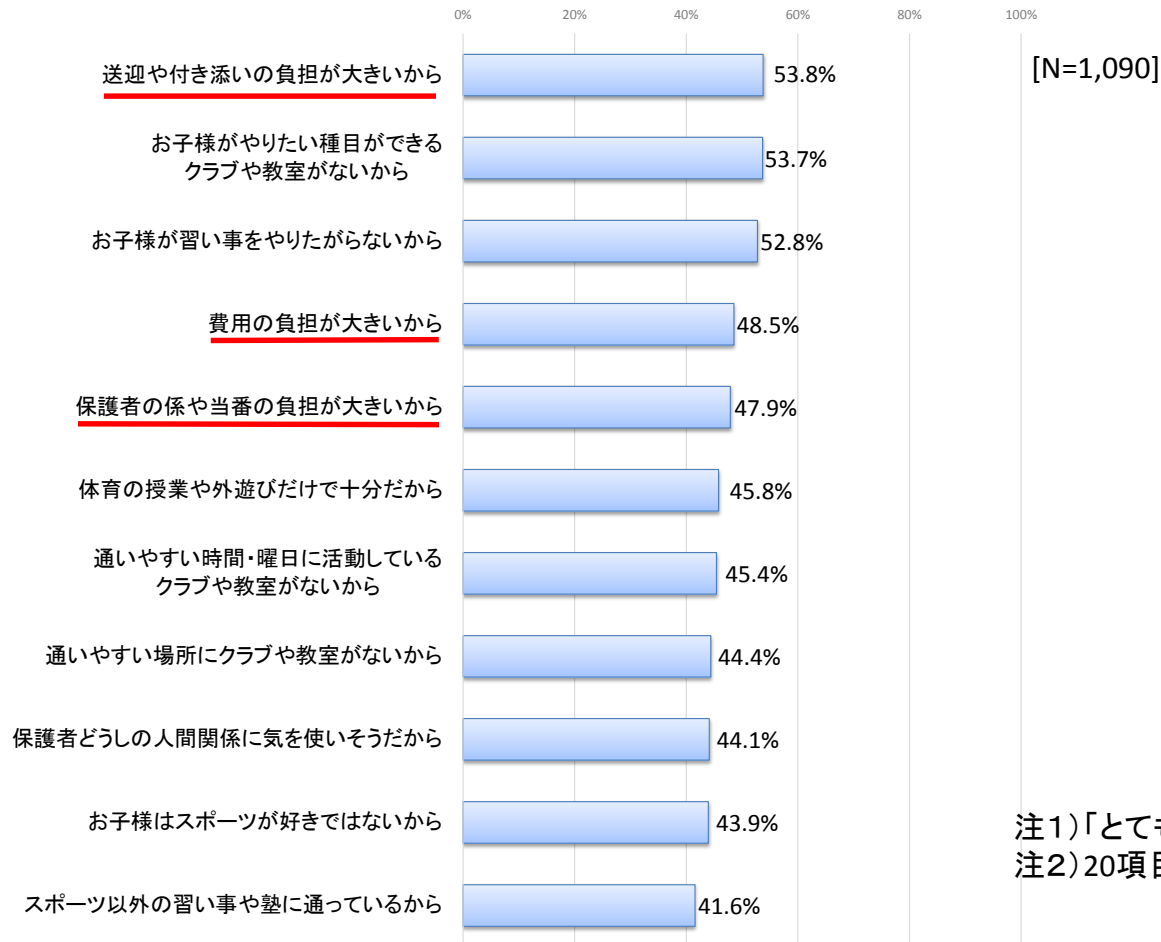
スポーツ活動をしていない子の母親



1) スポーツ活動をしない理由

「送迎の付き添い」「費用の負担」「係や当番の負担」など
保護者の負担が上位にみられる

Q：お子様が現在、団体（クラブ・教室等）に所属してスポーツ活動をしていないのはなぜですか。



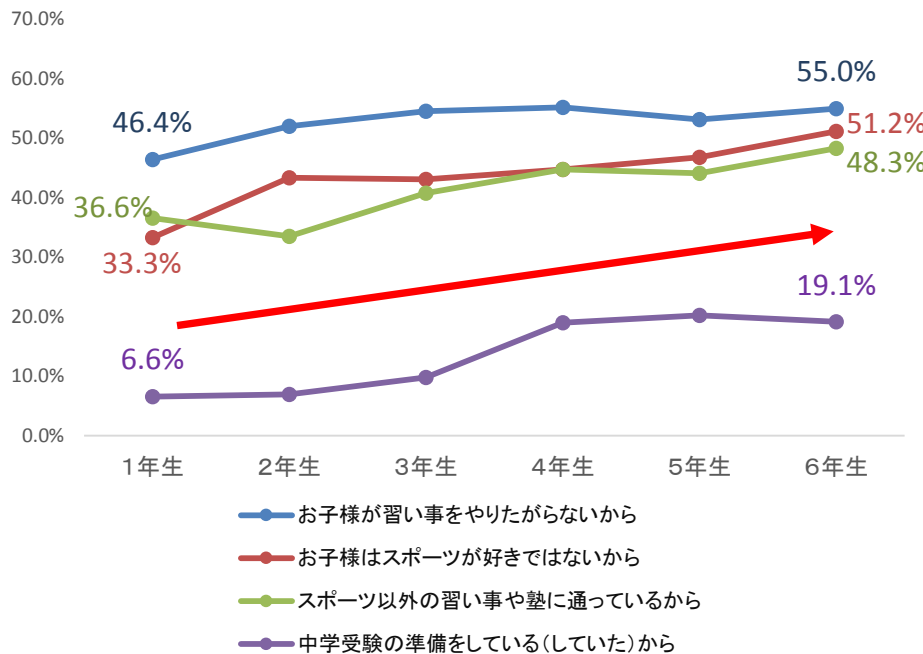
注1)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。
 注2)20項目中、上位11項目を表示。

2) スポーツ活動をしない理由 (学年別)

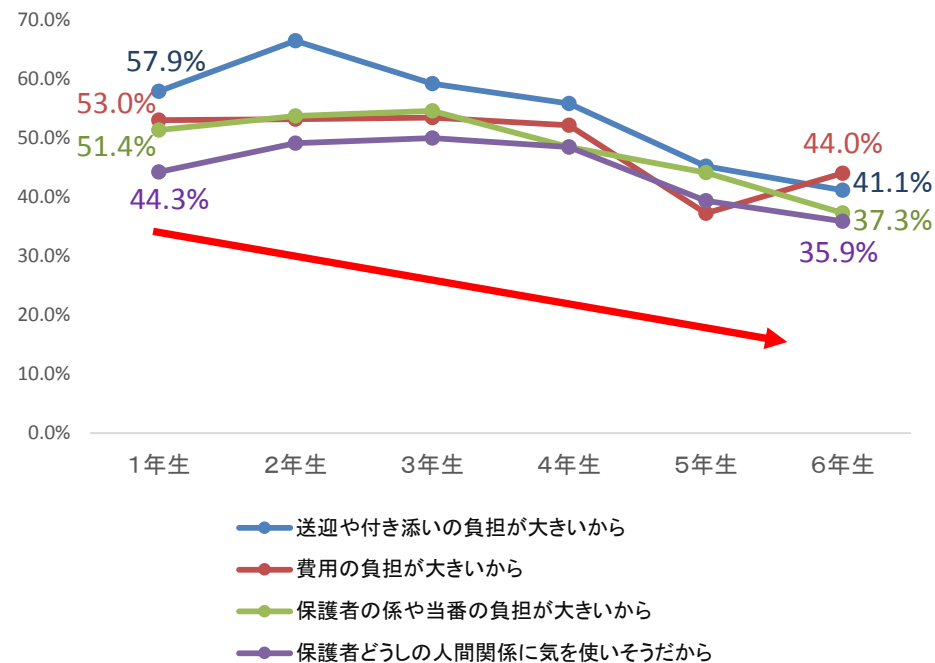
学年があがると、保護者の負担を理由にする母親が減る

Q : お子様は現在、団体 (クラブ・教室等) に所属してスポーツ活動をしていないのはなぜですか。

子どもの嗜好・行動に起因する理由



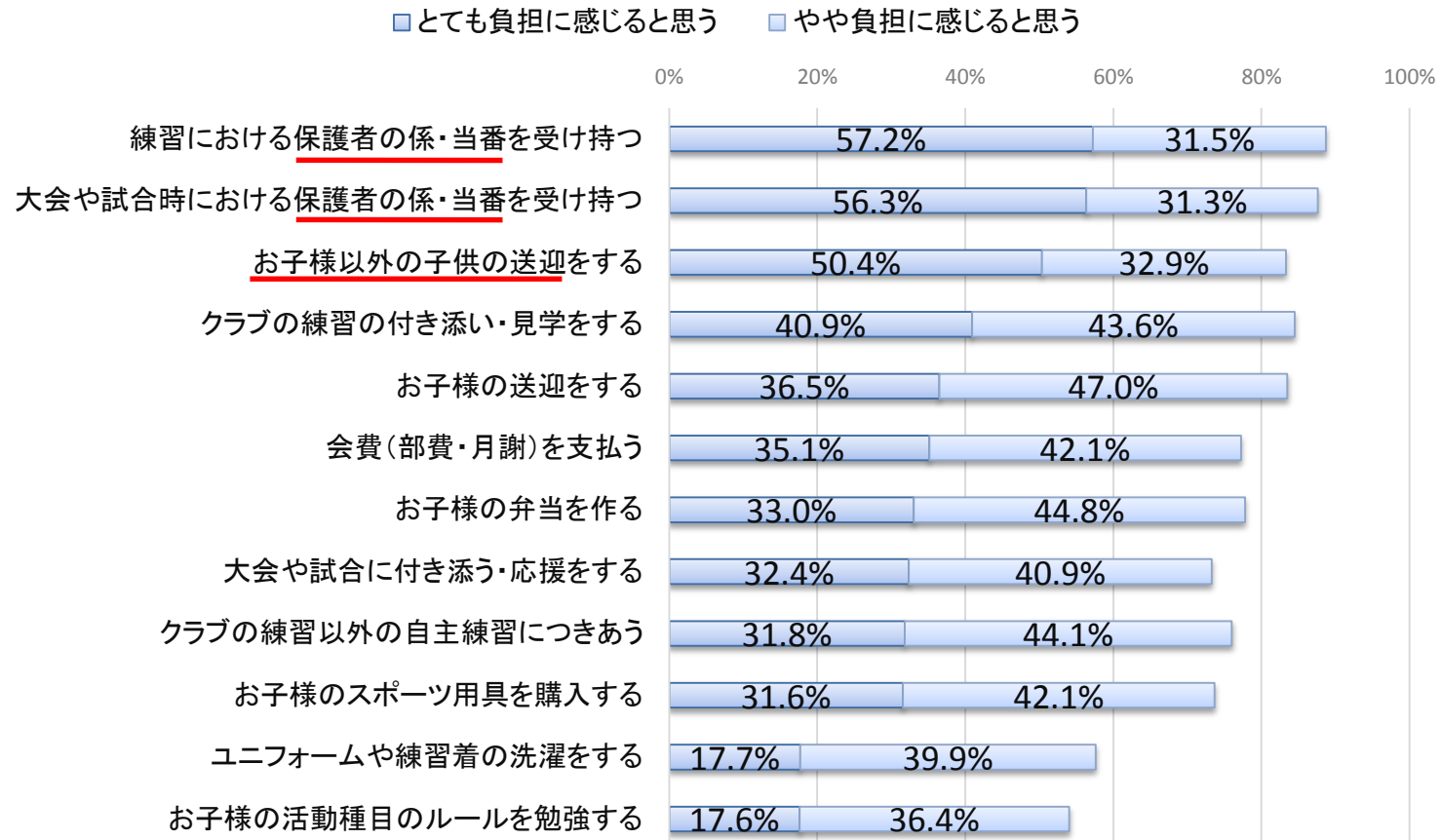
保護者の負担感に起因する理由



3) 母親の負担感

係や当番、自分の子以外の子どもたちへの関与に対する負担感が特に高い。

Q：もしこれからお子様が団体（クラブ・教室等）に所属してスポーツ活動をするようになったら、あなたご自身はどれくらい負担を感じると思いますか。



4) グループインタビューより①

負担感の強い母親たち



自分の仕事がフルタイムだった。それで送迎が
できなかった。

毎年役員決めがあって、…そこで人間関係で
「あの人はやってない」とかなる。子どもがらみで
そんなのは、親が疲れてしまう。

うちの方では、2つ選ぶ感じ。「うちはお金がないから、学校(で
活動している地域クラブ)のに入れるけど、そのかわり(保護者の
当番などは)覚悟して入る」と言う人と、「お金は大事だけど絶
対に(当番などは)嫌だ」という人がいる。

5) グループインタビューより②

保護者自身を理由にして諦めるケースの存在



(親が)不参加ならもっと前向きに検討する。

普段の練習で毎回保護者が来なきゃいけないとかは、子どものスポーツ云々より、自分の負担を考えてしまって、「やめた」となる

(入ろうと思っていたクラブで、)活動場所を毎週ママたちが予約してとることになった。…うちの子はそれ(活動風景)を見て「やりたい」となった…けど、その状態だったので、どうしようとおもった。(会場を予約)できないときに(当番の母親は)大変らしい。

6) グループインタビューより③

情報が得られず参加できない親子の存在



スポーツの情報が少ない。たまに小学校から「バスケやりませんか」というのはあるけど、もっとたくさん情報がほしい。

今越してきて2年だけど、自分のママ友がいな
いから、情報が入っていない。…学校でやって
いるのもわからない。小さいお教室だと、検索
しても出てこない。市でやっているのもわから
ない。民間も大手はわかるけど、小さいところ
はわからない。

7) グループインタビューより④

学年があがると、初心者にとってのハードルがますます高くなる




野球とかサッカーは、早い子は幼稚園ぐらいからやっていてうまくなっていて、5年(生)の時点で入ってもただただつらいだけで、今さら感がある。


(体験会を)1回ではわからないから、3回・5回とか、ある程度回数こなしてもらって、それでも本当にやるかどうか(を決めたい)。子どもはノリがいいけど、私はその場で決断はできない。

**子どもの意欲や好き嫌いだけが問題ではない。
保護者にとってのハードルを下げる工夫も必要。**


4. まとめと考察

- ① 保護者は何をしているのか？
- ② 子どものスポーツ活動を「支える」ことをどう思っているのか？
- ③ 誰が、「支える」ことに困難を感じているのか。

① 日ごろの関与は母親のほうが多い。母親と父親の役割の違いもみられる。

② 多くの母親がやりがいを感じる一方で、負担感の強い母親や、役割によって抵抗感のある母親も。

保護者の「支える」ことに対する負担感は、子どものスポーツ活動不参加の理由にもなり得る。

③ 低学年の親や地域に不慣れな人など、子どものスポーツ参加の観点からフォローが必要な保護者がいる。

保護者の視点を考慮したうえで、子どもがスポーツ活動に参加しやすくするために、スポーツの場でできることは何か。

- 保護者の多様性に目を向ける
- 情報の集約、公開
 - 特に初心者や地域に不慣れな人へ
- 誰がどのように子どものスポーツを支えていくのか？

ご清聴ありがとうございました。

※3月に本調査の最終報告・リリースを予定しております。